

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業名	英語教育強化地域拠点事業			会計	款	項目	大専	小専
政策	03	3節 学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）		主管課	指導課			
施策	3-2	個性を生かす教育環境の基盤充実		主管課長	笠井 善亮			

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市内小中学校児童生徒	意図	自らの意見を述べ、自国の文化や特徴を語ることのできる児童生徒を育成する。
事業内容	自らの意見を述べ、自国の文化や特徴を語ることのできる能力の育成を目指して、英語教育の実施学年の早期化及び小学校高学年の教科化に基づいた小中高等学校の系統性のある教育課程及び評価方法の研究開発を行う。			
事業開始から現在までの状況変化	平成26年度に文部科学省から4年間の研究指定を受け、本年度は本事業の3年目にあたる。研究の成果が認められ、全国的にも注目を集めている。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	英語活動指導員の指導時間の合計	660	972	1,020	時間	→→
②							
③							
④							
⑤							
⑥							

指標で表すことができない定性的な成果 「英語」が好きと答えた児童は、全国71%のところ本市は85%。「英語」は大切と答えた児童は、全国85%のところ本市は93%といずれも高い割合となっている

目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）  
 文部科学省教科調査官から、担任主導のチームティーチングが実施されていることや、本市の独自教材である『流山市英語プログラム』に関して、高い評価を得ている。中学校では、お互いの考えや気持ちを英語で伝え合う言語活動を中心とする授業を行っている。拠点校の小学校5、6年生を対象とした、「英語学習に関する意識調査」では、「英語」が好きと答えた児童は、全国71%のところ本市は85%、「英語」は大切であると答えた児童は、全国85%のところ本市は93%といずれも高い割合となっている。

事務事業のコスト	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事務事業の総コスト(a=b+c)	6,476,887	7,051,370	6,666,095
事業費(b)(円)	1,916,287	2,081,570	2,135,195
うち一般財源	1,916,287	2,081,570	2,135,195
職員給与費(c)(円)	4,560,600	4,969,800	4,530,900
人役・職員(人)	0.66	0.66	0.66
人役・再任用(人)			
人役・臨職(人)			
人役・嘱託(人)			
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）			
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）			

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
				コストの削減	A 削減の余地はない	
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H28)の改善計画	「流山市英語プログラム推進委員会」において、指導法や評価方法について研修を行う。	③取組の課題	小学校においては、高学年の授業時数増と教科化へ向けた計画、中学校においては、英語教育の早期化を受け、目標・学習内容の高度化を図る。
②今年度(H28)に実施した取組	「流山市英語プログラム推進委員会」を年4回開催し、指導法や評価方法について研修を行った。	④今後の改善計画	小学校においては、評価についての共通理解を図り、中学校においては、言語活動の充実を図る。